

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

企画名称 (講演タイトル)	東洋大生がワークショップで考える SDGs～イルカ・クジラの世界から見つめる SDGs ～【オンライン】
講師	相良 菜央さん(アイサーチ・ジャパン ICERC Japan(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)代表)
開催期間・日時	2021年8月10日(火) 14:00～16:00
会場	web 会議システム(Zoom)
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の概要について学ぶ。 ・SDGs についての関心を高め、今後の更なる学びや行動に繋がるきっかけを作る。
参加者数	27名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生 24名、関係者 3名
協力	
活動内容(概要)	
<p>ボランティア支援室では昨年度に引き続き、学生の SDGs についての関心を高め、主体的な行動につなげていくため、SDGs についての学びの場を設けている。今年度第2回目となるワークショップは、SDGs ゴール 14「海の豊かさを守ろう」について学ぶことにした。</p> <p>講師としてアイサーチ・ジャパン ICERC Japan(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)代表の相良菜央さんにお越しいただき、学生のディスカッションをメインにした参加型のワークショップとなった。初めに講師より、「イルカ・クジラ」が住んでいる海がどのような状態になっているのか、講師の幼いころの経験を通して、「町のごみが海まで流れていること」、「町でゴミを減らせば海まで届かない」と思いを持ち、現在活動を行っていると話があった。</p> <p>2回のグループワークでは、参加者がそれぞれ「何ができるのか」をディスカッションして、「SNS での発信」「まずは自分でできること(ゴミ拾いとかな)から始める」「大学生であるうちに知識を得て、周りの人や会社を自分たちで変えていく」「購入する商品が環境汚染をしないか確認する」など、前向きな意見が多数集まった。その際に講師より、海洋汚染を防ぐには、「陸上汚染を防ぐこと」につながっていることや、「結果」だけでなく、参加者が「考える過程」が大切であること、知識を得て、周りに広げることも大切である。と話があった。</p> <p>最後に参加学生より、本日出席した学生間でグループを作り今後も情報共有等ができればと提案があり、実施することになった。 【ボランティア支援室】</p> <p>今回のワークショップ内の菜央さんの話で特に印象に残っていることは、「All as one～みんな一つにつながっている～」ということです。自分たちの行動を少し変えるだけで、(例:プラスチック製の袋をもらわない、地域のごみ拾いに参加するもしくは企画・運営する)海などの自然を守ることに繋がるということを学びました。僕自身もまずは、自分の行動を改善することから始めたいと思います。</p> <p>今回のワークショップに参加していた人達からは、様々な知識と考えを聴くことができたのでとても有意義な時間を過ごすことができました。今後、他の議題や実際に行うボランティア活動も一緒に行えたら良いと思っています。これからもこのような取り組みがある時は積極的に参加していきたいです。</p> <p style="text-align: right;">【東洋大学 SDGs アンバサダー 永瀬 広大さん】</p>	

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

※写真があれば数枚を添付。但し、HP や広報誌に掲載する場合がありますため、被写体の了解を得るなど、掲載可能な写真を提出してください。

